

令和5年度 社会福祉法人 敬聖会 事業報告

I 法人本部

下記の行事を行い法人各施設の財政の健全性を図るとともに、新たに社会貢献事業を実施した。

1 評議員会の開催

- ・ 定時評議員会（令和5年6月14日） 出席 評議員6名（欠席1名）、監事2名
議案第1号 令和4年度事業報告について
議案第2号 令和4年度収支決算について
議案第3号 理事及び監事の選任について

2 理事会の開催

- ・ 第1回理事会（令和5年5月26日） 出席 理事5名（欠席1名）、監事2名
議案第1号 令和4年度事業報告について
議案第2号 令和4年度収支決算報告について
議案第3号 定時評議員会の招集について
議案第4号 理事及び監事選任候補者の推薦について
報告第1号 理事長業務執行状況報告
報告第2号 函館市社会福祉施設整備事業補助申請及び公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団への助成申請について
- ・ 第2回理事会（令和5年6月14日） 出席 理事6名、監事2名
議案第1号 理事長の任期終了に伴う改選について
- ・ 第3回理事会（令和6年3月26日） 出席 理事5名（1名欠員）、監事2名
議案第1号 令和5年度第1次収支補正予算(案)について
議案第2号 令和6年度事業計画案について
議案第3号 令和6年度収支予算案について
議案第4号 補欠評議員の選任候補者の推薦並びに評議員選任・解任委員会の開催について
議案第5号 経理規程の改正について
報告第1号 監事監査報告
報告第2号 理事長業務執行状況報告
報告第3号 令和5年度社会福祉施設に係る指導監査結果及び介護保険サービス事業者に係る実地指導の結果について

3 監事監査の開催

- ・ 第1回監事監査（令和5年5月26日） 出席 監事2名
令和4年度各会計収支決算について
法人並びに理事会・評議員会の運営状況について
各施設の運営状況等について
- ・ 第2回監事監査（令和5年9月5日） 出席 監事2名

令和5年度第1四半期の各会計収支・経理状況について
各施設の事業運営状況について
理事長の業務執行状況について

- ・第3回監事監査（令和5年12月5日） 出席 監事2名
令和5年度第2四半期の各会計収支・経理状況について
各施設の事業運営状況について
理事長の業務執行状況について
- ・第4回監事監査（令和6年3月26日） 出席 監事2名
令和5年度第3四半期の各会計収支・経理状況について
各施設の事業運営状況について
理事長の業務執行状況について

4 苦情解決委員会の開催

- ・第1回苦情解決委員会（令和5年6月14日） 出席 第三者委員2名
各施設の苦情全般について第三者委員に報告し、ご意見やご指摘をいただいた。

5 運営会議の開催

- ・毎月1回 計11回開催 出席 理事長、各施設長、ホーム長、事務長、事務局員
各施設の入所状況、前月次会計報告、各施設の状況等等について

6 地域貢献事業「生活困窮者に対する安心サポート事業」参加実施

社会福祉法人の使命として、無料で地域の生活困窮者に対する支援を行うことを
目的に「生活困窮者に対する安心サポート事業」に参加実施した。

- ・相談事業 1件
- ・経済的援助事業 4件（89,304円）

7 社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムへのデータ提出

誰もが全国の社会福祉法人の財務状況等の情報を閲覧することが出来る独立行政
法人福祉医療機構が運営管理する社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムへの
データ作成及び提出

8 函館市による社会福祉法人等に係る指導監査及び介護保険サービス事業者に係る 実地指導への対応

- ・対象法人及び施設 社会福祉法人 敬聖会
ケアハウスセンテナリアン（特定施設入居者生活介護）
- ・実施日 令和5年10月26日13:30～16:00
- ・出席 本部3名、ケアハウスセンテナリアン3名
- ・結果 指導及び改善事項なし

II ケアハウスセンテナリアン

1 ケアハウス・特定入居者生活介護共通

(1) 入居者の高齢化への対応について

令和5年度は、100歳以上の2名をはじめ90歳以上の退居者が多く、平均年齢が84.9歳（前年度86.2歳）と1.3歳若返った。しかし高齢化及び要介護が顕著になっており、介護が必要な入居者、認知症状の出た入居者も必然的に多くなってきている。特定施設利用者は退居者が多かったため減少したが、通院援助、服薬管理や居室清掃等も計画的に行われ日常生活も安定してきた。

(2) 入居者の確保について

全体では、入居者15名、退居者13名で月初平均で定員80名のところ78.6名となり、目標を上回ることができた。（目標 平均77名以上） 特定施設では、退居者が入居者を3名上回り、月初平均で27.1名となった、（目標26名）目標を1名上回ることができたが前年度から2名以上下回った。 ※（利用実績7頁）

(3) 入居者のQOLの向上について

著しい高齢化により居室内で転倒する入居者が増えている。デイサービスやデイケアの利用促進とともに、施設内での転倒防止のため歩行車の使用を勧めていく。また居室内に手すりの設置とともに室内でも歩行車の使用を習慣付けてもらう。

(4) 入居者の健康管理と受診援助について

看護職員が中心となって、入居者の日常の健康状態の把握に努めた。特に服薬管理・指導、医療機関への受診援助が充実した。また、コロナ、インフルエンザ、ノロ等のウィルス感染症の防止にも職員一体となって努めている。しかし一時はコロナウイルスの感染者が増え、初めてクラスターになった。基本的な予防習慣の徹底や環境面で食堂等の換気を徹底し、入居者間の感染を防ぐよう努力を続けていく。

(5) 機能訓練について

集団機能訓練で簡単な身体運動と共に計算問題や漢字の書き取りなどの「頭の体操」やゲームなどを実施して心身の機能の維持に努めた。更に参加者を広げる努力を続けて行く。

(6) 職員の資質向上について

外部研修は、コロナウイルス感染予防のため、ほとんどがWEB研修で行われ、多くの職員が参加できた。また、職員自主研修は、法人の理念をはじめ高齢者虐待防止等の基準上実施義務化されている研修を開催した。 ※（研修実績14頁）

(7) 施設の維持管理について

建物は築26年を経過し、水廻りの老朽化が著しく、年に数回、居室の床及び天井からの水漏れ等のトラブルが発生する状況で、これに迅速に対応してきた。

また、函館市施設整備補助事業で非常灯更新事業の2か年計画の最終年として整備事業を実施することが出来た。 ※（改修事業等実績19頁）

(8) 事業継続計画（BCP）の作成について

令和5年度末までの作成が義務付けられていた事業継続計画（災害編及び感染症発生編）を作成した。これらの緊急時に職員が行動できるよう計画の研修及び訓練を毎年行っていく。

Ⅲ グループホームききょう

(1) 基本理念に沿い、自立した生活を支援できるよう努めます。

年度末の平均年齢は前年度同様 90 歳となり、平均介護度は 2.6（前年度 2.5）と上昇している。年間の入院者数は 17 名とここ数年では最も多く、8 名の方がひと月を超える長期入院となった。7 名の方はホームへ戻られているが、入院生活で低下した ADL の回復が難しく療養やリハビリが必要なケースが多くあった。

加齢による身体能力の低下は避けられず転倒事故も多くあったが、転倒を防ぐために行動制限をするのではなく、その時々の状態をしっかりとアセスメントし有する能力を活用して生活することができるよう介護計画を立て、その方にあった替えの提供を行っている。

(2) ご利用者の確保に努め、安定した経営を目指します。

昨年度平均利用者数は 34.6 名（前年度 34.5 名）でしたが長期入院の方が多く、入院者を含めない平均利用者数は 33 名となった。

年間退居者 14 名（昨年度 6 名）と多く 1 名の方はホームにてお看取りをした。退居された方の平均年齢は 92 歳であり、現在の入居者の年齢からもいつ何が起こるかわかりませんので、体調変化の早期発見・対応に努め重症化を防ぐことでホームでの暮らしが続けられるよう努める。

待機者は 12 件から 14 件ありましたが、まだ先で検討されている方が多いこと、感染症の影響があり入居までに時間を要することがあった。

施設内見学を再開したことで、新たに見学に来られた方が待機期間なく入居となるケースもあった。

※（利用実績 8 頁）

(3) 職員が働きやすい職場づくり、人材の確保・維持・定着を図ります。

職員自主研修につきましては研修委員が中心となって各ユニットごとに行い、日ごろのケアと照らし合わせて意見交換を行う事が出来る場となっており継続して行った。感染症の研修については、継続的に理解を深める必要があるため、外部の講師をお招きし、実践を交えて実施した。

職員個別面談では、前年と比較し現在の課題の明確化と基本理念の理解を深める事が出来る機会である為今後も継続して行っていく。

※（研修実績 14 頁）

(4) 地域に開かれた施設を目指します。

夏祭りには桔梗町会からと地域包括支援センターよろこび、また入居者ご家族様をお招きし、直接入居者の様子を見ていただくとともに、関わりを持っていただくことができた。敬老会へもボランティアの方をお招きする計画をしていたが、直前でコロナ感染が発生し残念ながら中止となってしまった。感染症の状況によるところは、まだ継続してあるかと思うが、地域の方とのかかわりの機会を増やしていきたいと思う。

(5) 災害や感染症に対する備えを継続的に行います。

コロナ感染につきましては、発生はありましたが少人数で終息し大きな影響はなかった。しかし複数名の方が胃腸炎を発症し現在の日々の感染予防対策では拡大を防ぐことの難しさを感じた。

感染対策マニュアルを含む業務継続計画が状況に即したものとなるよう、見直しを行い、周知・訓練を重ね発生時に備えていく。

非常災害については、業務継続計画の周知と地震を想定した訓練を実施した。こちらも引き続き周知・訓練を行っていく。

IV 桔梗みのりの里

令和5年度事業運営目標及び基本運営方針について

- 基本理念を周知し実践するために、毎年度初めの理事長による施設内研修や新職員オリエンテーションにより理解を深め、人事考課に伴う個人面談を通して、基本理念から事業所が求める職員像を職員一人一人に提示します。
- 感染予防対策と発症した際の対応について、面会方法や外出行事について、感染予防に注意しながらも楽しみある生活を送っていただけるよう検討するとともに、感染症が発症した場合でも事業を継続し安定した経営を目指します。

令和5年度事業計画別事業報告について

(1) 基本理念に沿ったサービスの提供について

今年度も基本理念を職員へ周知するために、新人オリエンテーション、施設内研修、人事考課時の面談を実施した。

① 医療と介護の連携

森病院の協力のもと看取りケアの対応を令和5年度は3件行い、うち1件は施設にて看取り、他の2名は病状から森病院への転院をご家族がご希望され入院先での看取りとなった。また入居者の状況について森病院へ日々報告し、受診や検査の指示、薬を処方してもらうなどして利用者の心身の健康管理に努めた。

② 安定した事業経営

特別養護老人ホームは目標を達成できた。デイサービスではコロナウイルスの感染者が発生したが休止はせず、事業を継続しながら感染予防に努めた。利用を控える方が増えたため目標達成には至らなかった。ショートステイでは函館市内の他の施設でも空床が目立ち、新規入所者の獲得が難しく、また特別養護老人ホームに空床があった際にはショートステイから特養に入居となったケースが多かったため、目標を達成することができなかったが令和5年12月から徐々に平均入所者数が回復し、12月～3月までの平均は13.5となった。

| | | |
|-----------|------------------|----------|
| 特別養護老人ホーム | 平均95.2人(目標95人以上) | 平均介護度4.3 |
| ショートステイ | 平均11.9人(目標17人以上) | 平均介護度3.1 |
| デイサービス | 平均18.4人(目標21人以上) | 平均介護度1.6 |

③利用者の尊厳と生きがいをもてる生活の支援

感染予防に努めながら施設行事及びレクリエーションを計画的し、利用者を楽しんでいただけるよう実施した。ご家族や地域の方の参加できる行事は行えませんでした。外出レクやクリスマス会・敬老会といった行事もコロナ禍よりも徐々に規模を拡大しながら実施することができた。

面会については地域交流スペースを利用し、窓越しやビデオ通話ではなく直接面会ができるよう変更し、ご好評をいただいた。遠方のご家族もいるため月1回の写真入りの手紙で近況をご家族に送付する取り組みも引き続き行っている。

③ 地域交流・地域貢献

地域交流では社会福祉協議会主催の家族介護者交流会に講師として参加した。また地域包括支援センター主催のマルシェにボランティアとして参加した。今後も地域との交流が積極的に行えるよう桔梗町会や社会福祉協議会・地域包括支援センターの行事に参加していく。